

ろう児または難聴児のためのアメリカの言語発達チェックリスト

明晴学園ではギャローデット大学で取りまとめられた VCSL、カナダのオンタリオ州で用いられていたアセスメント、明晴学園の独自の評価方法などを用いて、手話の言語発達を見ています。この指標はご家庭で保護者の方が観察する際の参考になるようにと明晴学園で翻訳したものです。この指標は言語発達（手話も音声も含む）を見るものです。

※<https://www.cde.ca.gov/sp/ss/dh/sb210langmilestones.asp> を許可を得て明晴学園で翻訳したものです。



以下の言語発達の指標は、アメリカの上院 SB 210 委員会によって、誕生から 5 歳までのろう児または難聴児のために開発されたものです。

言語発達のマイルストーン（通過目標）

この保護者用の指標は、お子様の言語の発達を確認するために作成されています。早期支援またはプレスクールの先生と、お子さまがそれぞれのマイルストーンを達成し、年齢相応の言葉の成長を遂げているかどうかを話し合ってみてください。お子さまがそれぞれのマイルストーンを達成したら、チェックを入れてください。そして、お子さんが 5 歳で幼稚園に入園できるようになるまでの道のりを見守ってあげてください。お子さんが年齢相応に言語能力を伸ばしていない場合は、お子さんのプログラムとサービスをどのように変更する必要があるか、担任の先生と話し合うことが重要です。このようなサービスの変更は、お子さんの個別家族サービス計画 (IFSP) または個別教育プログラム (IEP) に書き込まれるようにすることが重要です。

この言語発達マイルストーンは、お子さまの言語と読み書きの発達に関する正式な評価に取って代わるものではありません^(注)。お子さんのスキルに関するあなたの観察は、お子さんの IFSP または IEP で提示される正式な評価の結果とは異なるかもしれませんが、あなたの観察は非常に重要なものです。この保護者による観察結果をお子さんの IFSP または IEP の会合にお持ちになれば、お子さんの成長についてのあなたの観察を共有することができます。

1 歳児

1 歳児は、周りの言葉を見たり、学んだり、吸収したりしています。この時期、赤ちゃんはあまり話したり、手話をしたりしませんが、赤ちゃんはあなたが手話や声で話しかける言葉をすべて吸収しているので、いつも赤ちゃんに話しかけ、手話を見せてあげましょう。

0~3 ヶ月

- 周囲を見回し、人の顔に注意を払うようになる。
- 赤ちゃんは、あなたを見ると微笑む。
- 周囲の環境を意識するようになる。
- 人の声や動き、光を認識し、反応する。

4-6 ヶ月

- 手や声を使った喃語を話し始める。あなたの注意を引くために喃語を使うかもしれません。
- 腕、頭、手、顔など、あなたの動きをまねるようになる。

- 赤ちゃんは、あなたの声のトーンの変化や顔の表情の変化に反応する。
- 赤ちゃんは、一人できるときや一緒に遊んでいるときに、クークー、ゴロゴロと言ったり、泣くことで感情を表現する。
- 手話や声で名前を呼ぶと、あなたを見たり、声を出したりするようになる。

7-12 ヶ月

- 赤ちゃんが自分自身やほかの物を指差すようになる。
- 「私の、もっと、ミルク、ママ、パパ」などをまねて、声または手話で初めてのことば（初語）を表すようになる。
- 赤ちゃんは、チューチュー、シューシュー、ブーンなどの擬音語（音）を出す。
- 大人と同じような抑揚や表情で喃語を話し、会話のやりとりをまねしようとする。
- 赤ちゃんが共同注意を示す（例：親と子が同じものを見る）。
- 赤ちゃんは、様々な表情が何を意味するのかわかる。
- 赤ちゃんは、ジェスチャーや発声で、抗議したり、感情を表現したりする。□ 赤ちゃんは、要求（例：ここに来て）に反応する。
- 赤ちゃんは、一般的な品物（例：コップ、靴、ジュース）や家族の名前の単語を理解している。
- ほとんどの場合、赤ちゃんは「ダメ」という言葉に反応する。
- 赤ちゃんは、人の顔や環境を注意深く見ている。
- 音や注意を引く行動（手を振る、電灯のオンオフ、足踏みなど）に反応して、振り向いたり、その方向を向いたりする。
- 生後 12 ヶ月までに、赤ちゃんは 1~3 個の音声か手話の語彙を持っている。

1~2 歳

1 歳から 2 歳の誕生日の間に、赤ちゃんはたくさんの言葉を覚え、言葉を組み合わせて短い文章を作り始めます。この時期、注目したいのは次のようなことです。

表出言語

- 赤ちゃんが感嘆詞を使うようになる（例：あれー、だめだめ）。
- 大人が最後に使った言葉を、赤ちゃんが繰り返す。
- 赤ちゃんは、一語ずつ、欲求や必要性を伝える。
- 赤ちゃんは、自分や他人を指すのに、手話や話し言葉で名前を使う。
- 赤ちゃんは代名詞を使い始める（例：私、私の、私のもの）。
- 赤ちゃんは、2 語の句（フレーズ）を使い始める（例：私のミルク、ママの靴）。
- 読み聞かせを求めるようになる。
- 赤ちゃんは、自分で描いた絵や落書きに、1-2 個の話し言葉や手話でラベルを付ける。
- 赤ちゃんは簡単な質問をする（例：あれ何、ママどこ？）
- 赤ちゃんは、会話の中で 1-2 回交互にやりとりをすることができる。

受容言語

- 赤ちゃんは、手話でも音声でも自分の名前を言われると、それを認識する。□ 赤ちゃんは、家族の名前を手話や音声で言われると、認識できる。
- 簡単な命令（例：おいで、ちょうだい、おすわり）を理解できる。

- 簡単な質問形式（例：誰、何、どこ、はい/いいえ）を理解できる。
- 聞かれたときに、自分や人形の体の部位を少なくとも5つ指差せる。
- 絵本のページにあるものの名前を言われると指差すことができる。
- 赤ちゃんは、韻律が含まれているものを、楽しむ。
- 赤ちゃんは、自分の名前の最初の文字がわかる。
- 赤ちゃんは、表紙を見て好きな本がわかる。
- 赤ちゃんは、本を「読む」ふりをする。
- 赤ちゃんは、本の使い方を理解し始める（例：一度に数ページめくる、本を逆向きに持つ）。

語彙

- 2歳までに、人、食べ物、動物、おもちゃ、動作などの名前を中心に、少なくとも50~100語以上の語彙を身につける。
- 2歳までに、赤ちゃんは手話または音声で簡単な二語文を使い始める（例：赤ちゃん泣いてる、ミルクもっと、私のコップ、ジュースない）。

2-3歳

この1年で、子どもは非常に多くの言葉を話したり、手話をしたりするようになり、記録を取るのが難しいくらいです。また、より長く、より複雑な文章を使うようになります。この時期、子どもの言葉の記録をつけるのは、とても楽しいことです。

表出言語

- 子どもは、聞かれたときに、絵の中や実際の物、動物、人の名前を言うことができる。
- 子どもは、要求された時に、フルネームを言う/手話で表すことができる。
- 子どもは、5まで数えることができる。
- 子どもは、すべての要求を声に出したり、手話で表現することができる。
- 子どもは、必要な時に助けを求められる。
- 子どもは、2段階で命令文を言う（例：座って、食べて）。
- 子どもは短い文章で経験を説明する頻度が高くなる。
- 子どもは、いくつかの童謡を口唱または手話で暗唱する。
- 子どもは、手話や音声で物語を楽しみ、物語の登場人物の行動や顔の表情をまねる。
- 子どもは、前置詞（例：上に、下に）を音声または手話で表現できる。
- 子どもは、嬉しい、悲しい、怒っているなどの感情を、手話や音声で表現できる。
- 子どもは、家族や友人がほとんど理解できる方法で話したり、手話で表現したりする。
- 子どもは、約80%の頻度で理解しやすい（はっきりと理解できる）言葉や手話を使う。
- 子どもは、ほとんどの基本的な文型を使用する。
- 子どもは手話または音声で”and ”（そして、それと）を使う。
- 子どもは名詞の単数形/複数形と動詞の一致を使う（例：boy walks, boys walk） □ 子どもは所有格を使うことができる（例：私の、あなたの）。
- 子どもは文中で過去形を使うことができる（例：ママが料理した、スージーが走った）。
- 子どもは一般化しすぎた言葉を使う（例：全ての動物を「子犬」と呼ぶ）。
- 2歳半までに、子どもは質問にイエスカノーで答えられるようになる。
- 子どもは、二語文の質問をする。

- 子どもは ”なぜ ”の質問をする段階に入る。
- 子どもは ”誰 ”の質問をする。
- 子どもは、人称代名詞 (I, me, my, mine) や所有代名詞 (his, her) を含む代名詞 (例: he, she, it) を使用することができる。
- 子どもは数+名詞 (例: two doggie) を使っている。
- 子どもは、簡単な説明の言葉 (例: 暑い、寒い、大きい、小さい) を使うことができる。
- 子どもは、少なくとも3つの色の名前を言える。
- 子どもは否定語を使う (例: no, none, not, don't like 好きじゃない, don't know 知らない, not-yet まだ)

受容言語

- 子どもは、二段階の命令 (例: 座って本を読みなさい) を理解する。
- 子どもは、状況やテレビ電話、ドアベルの点滅や、着信音に気付く (例: 指をさす、興奮する)。
- 子どもは、場所の表現 (例: 中に、上に) に適切に反応する。
- 子どもは、時間の表現 (例: 昨日、今日) を理解し始める。

語彙 □ 3歳までに、500以上の音声/手話の語彙を持つようになる。

3 - 4 歳

この頃になると、お子さんははっきりとコミュニケーションが取れるようになり、親しい大人からほとんど理解されるようになります。お子さんは、言われたことや手話で表されたことのほとんどを理解しています。4~5語の文章を使い、簡単な童謡を繰り返し歌えるようになり、簡単な会話ができるようになります。

表出言語

- 子どもは、流暢に、はっきりとコミュニケーションをとり、家族や身近な大人から容易に理解される。
- 子どもは、質問に論理的に答えることができる。
- 子どもは4-5語の文章を使う。
- 子どもは、3-4回のやりとりで、話題を変えずに簡単な会話を続けられる。□ 学校や友達との出来事を話すことができる。
- 読み聞かせされた絵本について話し合うことができる。
- 子どもは、絵の中の行動を説明できる。
- 子どもは所有格を使う (例: 私の、あなたの、彼の、彼女の)
- 子どもは、簡単な手話や音声の韻を繰り返すことができる。
- 子どもは読み書きをしようとする。
- ASL を使用している場合、子どもは方法、場所、方向、大きさ、形、程度、強さを表現するために CL を使用する。

受容言語

- 子どもは、伝えられたことのほとんどを理解する。
- 子どもは、”誰”, ”何”, ”どこ”, ”なぜ”, そして ”どうやって” の質問を理解することができる。
- 子どもは、2-4回の直接関連性のない簡単な連続した命令を実行できる (例: 座ってお弁当を食べなさい)。
- 子どもは名前を言われた物をその通りに渡すことができる。

□ 子どもは要求に応じて、「上・下」「上に・下に」の物を指差したり、置いたりすることができる。

語彙

□ 4歳までに、子どもは1,500~1,600の音声/手話の語彙を使うようになる。

4 - 5 歳児

この年齢までに、子どもは正しい文章を使って、過去、現在、未来について考えを述べるできるようになります。

この年の終わりには、子どもは数千の音声/手話の語彙を持つようになっているはずです。

表出言語

□ 子どもは、理解しやすい方法で、はっきりと流暢に手話/音声で会話をする。□ 子どもは、長くて詳細な文章を使う。

□ 子どもは、話題に沿った作り話をする事ができる。(ASL 使用者の場合、物語の中で空間を使うことができる。)

□ 音声を使う子どもの場合、ほとんどの音が正しく発音されるが、“r”, “v”, “th” は難しいことがある。

□ 子どもは、話し言葉や手話で韻を踏むことができる。

□ 子どもは、いくつかの文字と数字を識別することができる。

□ 子どもは4-8個の音声による単語や手話を使った文章を使う。

□ 子どもは “has”, “does”, “had ” を使用する。

□ 子どもは “なぜならば...”, “~する時、...”, “もし、...”, “~なので...” を文をつなぐ形で使う。

□ 子どもは “these (これら)” と “those (あれら)” を使っている。

□ 子どもは “前” と “後” を使っている。

□ 子どもは “なぜ” と “どうやって” の質問に答えることができる。

□ 子どもは出来事や行動を説明する時、感情や身振りを交えて話したり、手話を表したりする。

□ 子どもは、会話を適切に終わらせることができる。

□ 子どもは “何 ” の質問をする。

□ 子どもは “誰 ” の質問をする。

□ 子どもは “どこ” の質問をする。

□ 子どもは “なぜ ” の質問をする。

□ 子どもは “どうして~する?” の質問をする。

□ 子どもは過去形を使う。

□ 子どもは未来形を使う。

□ 子どもはこれらの文のように条件文を使う：

o 英語 (If... then...). もしそうであるならば、その場合は・・・

o ASL (話題化された文).

□ ASL を使う場合、子どもは手の形、手のひらの向き、位置、動き、顔の表現例：ボタン、猫、狐) の5つのASLパラメータを使っている。

□ ASL では、子どもは数の一致を使う。例えば、葉が落ちることについて話す - o FALL SINGULAR - 一枚の葉が落ちる；

o FALL PLURAL - 多くの葉が落ちる；

o FALL RANDOM - 葉が時々、あちこちで落ちる。

- ASL では、子どもは質問の最初と最後に Wh-語を繰り返す（例：WHERE GO WHERE?）
- ASL で、子どもは動作主を表す表現を使える（例：FARM-ER; TEACH-ER 農業をする—農夫、教える—先生）。
- ASL で、子どもは話題の保持（片手を保持し、もう片方の手で手話を続ける）を使用する。
- ASL では、子どもは体の位置の変更と視線を使う。

受容言語

- 子どもは、家庭や学校で言われたことや手話で語られたことの大部分を理解する。
- 子どもは、短い物語に注意を払う。
- 子どもは物語を楽しみ、簡単な質問を理解することができる。
- 子どもは、関連する 4 つの簡単な命令を順番に実行できる。
- 子どもは、似ているもの（例：飛ぶもの、食べるもの、着るもの）を理解することができる。
- 子どもは時間の概念（例：昼と夜）と季節を理解する。
- 子どもは、韻を踏む言葉を理解する。
- 質問された時に、前、後、上、下を指差したり、物を置いたりすることができる。

語彙

- 子どもは、2,500 以上の音声/手話の単語を使用する。
- 子どもが音声の単語や手話の意味を聞き始める。
- お子さんは、描写する言葉（例：硬い、柔らかい、やばい）を使う。
- 子どもは、順番の概念を組み立てられる（小さいものから大きいものへ、長いものから短いものへ）。
- 子どもは、カテゴリーに名前を付けられる（例：ピザ、ハンバーガーは食べ物）。

【参考文献】

- "Literacy Milestones Birth to Age 6" - Reading is Fundamental The Literacy Advisory Board and Multicultural Advisory Board
- "My Smart Hands" Laura Berg, Ph.D
- "Language Development 0-5 Years" Ages and Stages Summary
- "How Does Your Child Hear and Talk" American Speech-Language-Hearing Association (ASHA)
- "Speech and Language Development Milestones" National Institute on Deafness and other Communication Disorders (NIDCD)
- Hawaii Early Learning Profile(HELP) Curriculum Based Checklist
- Language Development: An Introduction, by Stephen Stahl Brookline Books, Brookline, MA
- "Language Development Timeline" Bradley E. White, copyright
- "Visual Communication and Sign Language Checklist" Simms, Baker, and Clark, copyright - "SKI-HI Milestones 0-5 Years" HOPE, Inc.

ご質問は： Julie Rems-Smario | JRemsSmario@cde.ca.gov | 916-262-7823 まで。